

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム理念、サービス提供指針を作成しスタッフルームに掲示して共有している。	あいあい松戸の理念は、利用者の心を大切にしたい1、「今を尊重する」2、「意欲の芽を見逃さない」3「ありがとうの言葉が循環するように」4「困りごとはチームで取り組む」5「地域との関係を構築する」を掲げて職員は理念に沿った支援を行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には、民生委員、自治会役員の方にも参加していただき活動報告を行っている。 また自治会の盆踊りへの参加、設営の手伝い、防災訓練への参加も行っている。	地域の一員との意識が強く、自治会に加入しています。地域の盆踊りや防災訓練に参加して地域の方に「あいあい松戸」の事を知ってもらおうとともに、認知症を理解して頂けるように地域の活動に積極的に参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページのブログにて行事の実施報告をしている。またGH協議会に加入しており市のイベントにも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の活動報告の他、随時、地域や事業所内の課題について取り上げている。また介護相談員の実施後には必ず面談を行い意見を取り上げている。	他のグループホームの管理者、自治会長、市の支援課の職員、利用者家族等が参加しています。家族からは「自立支援は、無理せずゆっくり利用者に合わせてほしい」との意見を職員会議で検討して、利用者にあった支援ができていくか振り返りの機会を頂きサービス向上に活かしました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政窓口への手続きの他、市の研修などに参加。GH協議会にも市の職員が参加されるので、その際には現状、報告を行ったり、運営推進会議にも招いたりしている。	市の研修などに参加し、グループホーム協議会で市の職員と会う機会があるので、現状報告を行い市との連携を積極的に行い協力関係を築くよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内全体で身体拘束を行わない理念を掲げている他、定期的に社内研修を行い、実践に繋げている。玄関については、事故や防犯上の観点から施錠を行っている。	防犯上から外からの侵入を防ぐために門は施錠していますが、利用者が外に出たい気持ちを尊重して玄関は施錠していません。外出には職員が一緒に行きます。身体拘束しないケアの研修を行い周知徹底しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行い虐待について高い意識を持つように努めている。新任スタッフへは入社時のオリエンテーションにて研修を行い法人全体で虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等に参加し制度の新しい知識を理解するよう努めている。ご家族様やご本人からの相談にも必要に応じて資料や情報の提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書を用いて丁寧に説明をする事を心がけている。またご家族様やご本人からの疑問点も聞きながら不安を取り除けるよう時間をかけて時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の受け入れや面会時には、最近の様子等を伝え、ご家族様からの意見や要望を聞くようにしている。ご家族様を招いたイベントも開催してご家族様との関わりを多く持つようにしている。	家族が面会に来た時「利用者は働き者なので役割を決めてほしい」との意見要望があり職員会議で検討し少しでも出来ることはしてもらうようにしています。利用者家族の意見を多く出してもらい運営に反映させたいとの取り組みで意見箱を置いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	モラールサーベイの実施や会議には事前アンケートを実施してアンケートを基に会議を開催している。提案箱を設置し運営や業務に関すること等スタッフから意見を募るようになっている。	社内改善委員会、提案箱を置きAEDの設置を希望との意見でAEDが設置が検討されています。提案した職員には褒美が用意され多くの提案を促しています。従業員の勤労意欲や意識をアンケートなどによりノー残業デーを取り入れたたり職員の意見が反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課がありスタッフへのフィードバックを実施。労働環境についても、法人内で社内改善委員を設置し働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフが希望する外部研修への参加を促している。また研修委員を決めて社内研修の計画も実施し、外部からの研修の受け入れや日程の調整等もやっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に加入し協議会開催の研修に参加してもらっている。また運営推進会議に近隣のGH職員も招いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人に要望や不安な点をしっかり聞くようにしてスタッフへ共有している。入居してからもコミュニケーションの時間を多く設けて不安が解消出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様に要望や不安な点をしっかり聞くようにしてスタッフへ共有している。入居してからご本人の様子を連絡したり面会時には、詳しく報告するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの説明だけではなく、ご家族、ご本人が必要としているサービスを適切に説明するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意見や要望を尊重している。ご本人が役割を持って安心した生活が送れるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出行事や季節の行事には、ご家族様もお誘いして参加してもらっている。また往診時も家族の希望があれば一緒に立ち会って頂き、医療的な支援についても話を聞いてもらうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、行っていたボランティアサークルの方を招いて一緒に踊ってもらったり、良く行っていたお店に外出に出かけたりしている。	利用者がこれまでの人間関係や社会との関係を把握した上で、今までの人間関係を途切れないように、趣味で一緒だった人を招いて楽しんでもらったり、また良く食事に行っていた店に行くこともあります。併設している通所サービスの利用者に馴染みの人がいたら会いに来てもらっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係によって食事の席を変更したりまたレクリエーション時には全員が参加して多くのご利用者様と関わりが持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族の要望に応じて相談受け付けや今後の生活における助言を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、ご家族・ご本人から情報収集を行うとともに居室担当が中心となり共有し検討している。	居室担当を決め担当者を中心に利用者の居室内の整理整頓や物品の把握をして利用者の思いや意向を申し送りノートに記入して利用者へ寄り添う支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族・ご本人から情報収集を行うとともに普段の会話から発見した事等を共有し居室担当が中心となり検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様に応じた1日の生活サイクルを理解し受け入れると共に変化の生じやすい細かいことも意識し把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時に話を聞いたり、医療機関とのカンファレンスに参加し、担当医、看護師からの意見も反映させた介護計画を作成している。	利用者が安心してより良く暮らすための介護計画を利用者、家族、医師、看護師、職員、利用者に関係している人と話し合い、看護、介護を連携して作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報やケース記録に記載、また温度版を利用し日々のバイタルやリハビリの実施等を共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスと連携し、スペースや必要物品、機材、車等を共同で使用し多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の夏祭りや防災訓練等に参加したり、近隣へのスーパーに買い物や外食に出掛けたりとしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や訪問医の紹介は行うが、ご家族様・ご本人の意向を尊重して決めている。	かかりつけ医は家族が同行して受診し、その際は看護記録を持参して頂きます。受診後はかかりつけ医から情報をもらい、情報を共有し支援を行っています。看護師も週一度訪問しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護の他、体調不良時には、随時、連絡も受け付けており、必要時には、速やかに訪問し対応してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の介護サマリー作成・提出及び退院に向けたホームの受け入れ体制の相談など早期に病院へ連絡し状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期についての意向を伺い、状態の変化に伴う医師からの説明、意思確認を行う。方向性を確認した後、関連職と連携を図り、ご本人やご家族に配慮したトータルケアを実施、看取りが多くなっている。	入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」に沿って説明しています。その後状況の変化に応じ、家族と医師の話し合いで意向の再確認をします。協力医、看護師とは密に連絡を取れる体制があります。職員のメンタルケアに配慮しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修や防災訓練で応急手当や初期対応の実践を見に付けている。またマニュアルを作成し共有出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。また運営推進会議では、自治会役員も参加され災害時の対応等について話し合いを行っている。自治会の防災訓練にも参加し協力体制を築いている。	消防計画・非常災害対策マニュアルがありません。年2回の消防訓練をしています。地域とは顔馴染になっており災害時の協力体制はできています。しかし、夜間を想定した訓練や、職員の役割分担等できていません。	災害はいつどのような時間帯に起こるかわかりません。様々な発生時間を想定し、職員の役割分担を含め、具体的な避難誘導の方法を検討し、訓練に臨むことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いに対するマニュアルを設置し研修を実施している。ゆとりを持った業務内容にいつでも焦らず対応出来るよう努めている。	利用者の顔写真を事業所内に貼ることについて家族に了解をとっています。利用者の人格を尊重し誇りを損ねないように、意向をゆっくり聞き利用者本位で丁寧な言葉で対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	馴染みのある町内会の行事の参加や誕生会ではご本人の行きたい場所へ出かけたりしている。水分補給時には、メニュー表を作成して好きな飲み物を選んでいただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールボードを掲示して、ご利用者様の過ごし方が分かるようにしている。ご利用者様の過ごし方も聞きながら予定を決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時やイベントがある時には、お化粧をしてもらったり、衣類を選んでもらったりとしている。入浴の着替えの準備も選んでもらったりとしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・下膳はセルフサービスを実施している。食事の片付けも可能な限り、一緒に実施している。	利用者が好みの小鉢を取っています。押し付けにならないように職員は栄養のバランスを考えて声掛けをしています。食を楽しんでほしい、健康で過ごして頂きたいとの思いが出ています。後片付けはできる限り全員で行うようにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表にて食事量と水分量の把握をして共有し必要に応じた食事、水分の提供をお実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを勿論のこと、歯科往診にて口腔ケアを実施し、先生より口腔ケアの指導をもらいながら実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排尿の確認をして必要に応じたトイレ誘導に努めている。	排泄の自立を目指し排泄チェック表を確認しながらトイレ誘導を行っています。布パンツにパットを使用することでトイレでの排泄ができるようになった利用者が増えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分摂取量1000ccを目安にして1000cc以下の際には、申し送りにて報告し共有し水分摂取のUPIに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限りご本人の希望を受け入れ夜間浴等も実施していたが、現在はご利用者様の体調変化もあり、日中への入浴対応となっている。	併設されているデイサービスのお風呂を使っています。お風呂は銭湯のように広く、手足を伸ばすことができ入浴を楽しむ支援ができています。利用者が重度化したときは機械浴で対応し、清潔の維持ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースで生活できるように配慮している。晩酌をされるご利用者様もおり現在も対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を閲覧できるようにしている。また服薬担当が決まっている。服薬変更時には、申し送りに記載し共有出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事支援を中心に役割を持ち張り合いのある生活が送れるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーへ買い物に出かけたり、毎月、外出行事や誕生会の外出等を行い、施設に閉じ込む事のないよう努めている。	近所のスーパーに行ったり、施設に閉じ込むことがないように支援しています。誕生会で外食したり季節に応じて毎月遠出をし、季節を五感で感じ楽しむ支援を行っています。	遠くに外出する支援等職員のみでの介護でなく、日常的な外出支援で顔馴染みになった地域の人々と一緒に行き、「地域で暮らし、地域を頼り」を実現できる支援に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の財布は預り管理しているが、外出や買い物時には、財布を渡して金銭を自由に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて支援している。手紙の代読や代筆の支援も必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の装飾や馴染みの音楽、照明、木目調の建具、空調管理等により心地良い空間を創り出している。清掃や環境整備により清潔感のある住居となっている。	共用空間は整理整頓され、お雛様が飾られ明るい雰囲気が作られています。壁面は装飾担当職員による装飾や写真が、利用者の目線に合わせて貼られています。また、テーブルには生花が飾ってあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではテーブルを囲んでご利用者様同士が会話をしたり、ソファでゆっくりTVを見たりすることが出切る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏具や建具、自宅で使っていたタンス等も持参出来るように対応している。茶碗や箸等の食器類も今まで使っていた物を用意してもらっている。	ベッド、小タンス、テレビは備え付けのものを使用しています。それ以外は自宅から持参したものを家族と一緒に作り、利用者が不安にならないように安心した居室ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床材には、クッションフロア材の採用、トイレ、浴室、廊下等には手すりが付いている。危険を排除するのではなく通常の生活において必要な物を安全に使用できるよう心掛けている。		